

TES会中部支部 第132回クレーム事例勉強会

検討年月日	2019/2/15		Aグループ						
品名(拡大写真)	プリーツ入りシルクワンピース								
	組成	取扱い表示	140	220	320	440	530	620	710
	表地 100% シルク		141	210	310	430	520	621	711
部分使い 79% レーヨン	21% ポリエステル	142	200	300	445	510	610	712	
裏地 75% アセテート	25% シルク	130			435	500	611	700	
		131			420		600		
		132			410				
		110			425				
		100			415				
		ネット無蛍光中性					あて布使用		
			国内用取扱い絵表示なし						
申し出クレーム内容	プリーツが消えた								
クリーニング処理法	クリーニング業者が、着物の汗取りのように裏側より霧吹きを行ったのちタオルで叩いた(トントンと叩く程度)								
グループ検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シルク素材はプリーツセット性はあってもプリーツ保持性はないため、プリーツの形状安定性はない ・プリーツは消えるべくして消えた ・霧吹きしても意味がないと思う ・水を用いた取扱い方法に問題がある 								
検査機関検討内容	<p>【外観観察】 前身頃の胸部付近のプリーツが消失している。</p> <p>【推察】 合繊(ポリエステル)やウール以外でのプリーツ加工はあまり長期間持続しないとされている。</p> <p>特に、絹に関しては風合いを活かすため、湿熱処理によるプリーツ加工が多用されている。湿熱処理によるプリーツ加工はプリーツ保持性が弱く、吸水や吸湿により、すぐにプリーツが消失してしまうとされている。</p> <p>また、縫付にも『雨や水に濡れるとプリーツ消失の原因となり・・・』との記載がある。霧吹きの中身が水でなかったら状況が変わったかもしれないが、クリーニング業者などのプロに任せた方がよいかも。</p>								